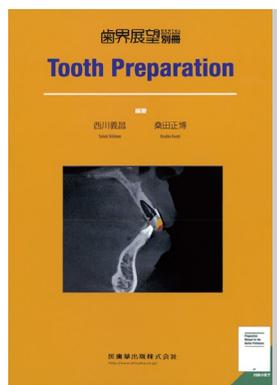




西川義昌・桑田正博 編著

月刊「歯界展望」別冊 Tooth Preparation

株式会社スマイル・ケア代表
土屋和子（歯科衛生士）



A4判変/120頁
定価 6,090円
(本体 5,800円+税 5%)
医歯薬出版刊(2012年5月発売)

まず、本書の素晴らしい序文を紹介しましょう。

「完璧な修復治療などというものは存在しない。疾患のリスクが存在し続ける一方で、口腔内環境は変化していく。修復物は劣化していき、環境の変化に対して意図的な対応はできない。そのため、われわれは治療を始める前にしっかりと診査・診断を行い、熟達した手技で最小の治療にとどめるように心がけるべきである」

この一節は、当たり前のようにありながら意味深く、心に響きます。“診査・診断、熟達した手技、最小の治療”は、心がけるくらいで手に入るものではなく、そこには学習と治療に向かう真摯な姿勢が必要であることが読み手に伝わってきます。

本書では、1本の歯のフルクラウンの基本的な形成について、まとめられています。また、多くのCT画像から、歯が頭蓋に対してどのような角度で植立されているのかがわか

りやすく解説されており、正常な歯軸のあり方を理解するための貴重なデータが記載されています。

そして、「ティッシュリテンション」と表現される歯肉縁下部の機能的要件は、私たち歯科衛生士にとって特に必要な知識でしょう。修復物が歯肉と接する部分においては、歯肉の再生・成長を妨げることなく歯肉の形態を維持できるような修復物形態を設計することが重要です。マージン部が歯肉縁下に設定される際は、適切な形態と滑沢な研磨面が必須条件であり、本書では、生体が補綴・修復物を受け入れる要素として重要なデザインが、多くのイラストによって表現されています。マージンが結合組織付着部に設定された場合や、適切でないサブジンジバルコントゥアが設計された場合に発症する炎症は、ブラークコントロールで改善できるものではありません。歯科衛生士として理解を深めたい項目です。

また、歯科衛生士にとって補綴・修復歯から読みとるべきことは、修復に至った原因・リスクを把握することであり、それが修復歯の管理に活かされます。さらに、歯の長軸の方向性や力学的に配慮されたデザインを知ることは、良好なメンテナンスを維持させるための必須知識といえるのではないのでしょうか。

本書は、数年にわたって筆者の先生方が何度も打ち合わせを重ねて完成されたものだと聞きました。歯科衛生士が歯科医療者として仕事に向かうためにも、ぜひとも多くの方に読んでいただきたいと思います。